

伊達市産夏秋きゅうりの おいしさに迫る！

～桃陵中学校職場体験～

6月30日㊤～7月2日㊤にかけての3日間、桃陵中学校の生徒4人が職場体験で伊達市役所を訪れました。

体験活動の一つとして、「伊達市の夏秋きゅうりの魅力を伝える」ことをテーマに取材をしてもらいました。

秘書広報課でのミッション

- ①取材に向け質問事項を考えるべし
- ②きゅうり生産者さんにインタビューするべし
- ③きゅうりの魅力が伝わるような写真を撮るべし
- ④きゅうり販売者さんにインタビューするべし
- ⑤取材した内容を記事にするべし



きゅうり生産のやりがい？

育てているとどんどん大きくなっていくきゅうりの成長にやりがいを感じるそうです！

きゅうりがおいしくなる秘密

それは、生産者さんが朝早くに起き、夜遅くまで作業をしているからです。

特に朝早くに起き、なるべく早く出荷することがおいしくなる秘密の1つだとおっしゃっていました。採れたてのきゅうりはとてもみずみずしくておいしいです！

おいしいきゅうりの見分け方

おいしいきゅうりの見分け方を聞いてみたところ、きゅうりにあるトゲがより多く、触って痛いものが、おいしいと教えていただきました。

曲がっているきゅうりの秘密

きゅうりはストレスがかかると、曲がってしまうことがあるそうです。

にじいろのだて (男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『性的マイノリティ』…「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」など、性のあり方が少数派の人々を広く表す総称。



1日にどのくらい売れるの？

道の駅伊達の郷りょうぜんの従業員さんにインタビューをしたところ、毎日約100袋近くのきゅうりが売れているそうです。旬のものはレジの近くに並べるなどの工夫もしているそうです！

ご協力いただいた皆さん
ありがとうございました！



輝いている人を紹介します

まちのキラリ

安全功労者内閣総理大臣表彰受賞

伊達市交通教育専門員

亀岡 敏彦 さん (保原地域)

人生の半分以上の年月、地域の子どもの見守りに務めた亀岡さん。そのご功績が認められ、令和8年度安全功労者内閣総理大臣表彰を受賞。そんな亀岡さんが長年交通教育専門員を続けることができた理由とは…。



Profile ●かめおか としひこ
昭和28年生まれの73歳。昭和61年から上保原地区で交通教育専門員を務めており、児童の登校見守りのほか、学校の交通教室などの講師も務める。



授与された銀杯
安全功労者内閣総理大臣表彰
交通安全や火災予防など、国民の安全の確保について顕著な功績をあげた人々を内閣総理大臣が表彰するもの。令和8年度は7月1日、総理大臣官邸で実施。

子どもたちを見ていて、思い返すといろんなことがありました。転んでケガした子が泣きながら私に「もう歩けない」って言うんで、学校までおぶって行ったり…。ある雪の日、いつも一人で歩いて来る子が何時になっても来ないから様子を见に行ったら、泣き泣き雪道を歩いていったんで車で送って行ったことがあったり…。近頃はそういう子は少なくなりましたね。学校の教育も良くて、一年生でも元気にあいさつしてくれます。あの頃の子どもたちが今では親になり、私がその子どもを見守っています。「亀岡さんまいたの！」なんて驚いて声をかけてくれるお母さんもありましたね(笑) 子どもたちが事故に遭わない

ようにという一心で交通教育専門員を務めています。私ひとりの力では難しいですが、みんなで協力して交通事故を1件でも無くしていければいいですね。
振り返る半生。そして：
交通教育専門員になって40年を過ぎましたが、大変だと感じたことはありませんでした。毎日子どもたちの元気な顔を見て、「亀岡さん！」と明るくあいさつしてもらるのが本当に楽しみなんです。
今回の受賞を家族も喜んでくれました。とはいえ、これまで職場や家のことを任せてしまうことも多かったので、家族の、特に家内の理解と支えがあったからこそ、今回の受賞に至ったのであると感謝しています。

子どもたちを見ていて

市民の小部屋

